

実践事例

1 実践の概要

(1) 取組みのねらい

- ① いじめを早期に発見することによって、早期に対応することができるようにする。
- ② いじめになりつつある行動を把握し、いじめに発展することがないようにする。
- ③ いじめはしてはいけないことであるという意識を持たせるための資料とする。

(2) 取組みの内容

- ① いじめに関するアンケート調査の実施
 - 年2回6月と10月に実施
- ② 教育相談の実施
 - 年2回6月と10月に実施
 - いじめに関するアンケート、不登校に関するアンケート、生活習慣に関するアンケートの結果を参考にしながら、教育相談にあたる。

2 実践の成果（態度・心情面やいじめの解決など）

○ 昨年度の例から

いじめに関するアンケート調査の実施により、いじめに発展することが予想できる事例を把握することができた。

A児がB児の悪口らしいことをC児に対してひそひそ声で話しているという事実を把握することができた。教育相談の場でA児に対して事実関係を確認したところ、事実を認めたがB児もA児に対して同じようなことをしていると感じているという。互いに中傷する話をしないことや干渉しあわないことを約束しあうことで解決に至った。

3 取組みの評価（対応についての評価）

- 年2回調査を行うことによってある程度の児童の実態を把握することができた。しかし、調査が万能ではないので、日常的な観察をもとにした教師間の情報交換等が不可欠である。
- 調査をもとにして教育相談にあたることによって、具体的な資料をもとにした話し合いをすることができるので効果があると考えられる。その際、調査結果に頼り切ることなく、担任教師の日常観察や教師間の情報等も参考にしながら教育相談にあたり、冷静に指導助言していかなければならない。

4 実践に関する資料（学習カード等）

次ページ参照

アンケート1

名前

1 あなたはひやかされたり、むしされたり、からかわれたりしていやなおもいをしたことがありますか？ はい いいえ

2 1で「はい」とこたえた人だけです。

○ だれにひやかされたり、むしされたり、からかわれたりしていやなおもいをしましたか？

○ どんなことをされていやなおもいをしましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。

ひやかされた むしされた からかわれた

○ ひやかされたり、むしされたり、からかわれたりすることは、いまもつづいていますか？

つづいている おわった

○ ひやかされたり、むしされたり、からかわれたりしたとき、だれにそうだんしましたか？

◎ いえの人 (だれ)

◎ せんせい

◎ ともだち

◎ だれにもそうだんしない

◎ その他 (だれ)

3 あなたはともだちが ひやかされたり、むしされたり、からかわれたりしていることをみたことがありますか？ はい いいえ

4 3で「はい」とこたえた人だけです。

○ そのときどうしましたか？

5 ひやかされたり、むしされたり、からかわれたりすることをなくすために、どんなことをしたらいいとおもいますか？

6 あなたはひやかされたり、むしされたり、からかわれたりすることをどうおもいますか？

実践事例

1 実践の概要

(1) 取組みのねらい

- ① 一人一人がめあてを持ち、意欲を持って生活ができるようにする。
- ② 基本的な望ましい生活態度や習慣を身につけることができるようにする。
- ③ 思いやりを持ち、情操豊かな潤いのある生活を送ることができるようにする。

(2) 取組みの内容

① 積極的な生徒指導を取り入れた活動の推進

- あいさつをしっかりとしよう。
 - そうじを本気でしよう。
 - ことばづかいをよくしよう。
- この3つの言葉をスローガンとして指導している。

- 授業や各種行事等での積極的な生徒指導

② 具体的な取組み内容

- 毎月末の1週間を「3つのスローガン強化週間」として、週の生活のめあてにして週番教師や生活向上委員会の児童が中心となって指導・注意・呼びかけをしている。
- 毎月末に個人・学級で反省をしている。
- あいさつは教師から率先してするようにしている。
- 掃除を子どもとともにする中で、掃除の仕方を教えるようにしている。
- 教師が子どもの名前を呼ぶ際、「さん」「くん」をつけて呼ぶようにしている。
- 児童の良さががんばりを積極的に取り上げ、紹介する活動を推進することで、心の居場所としての学級の雰囲気作りをしている。

2 実践の成果（態度・心情面やいじめの解決など）

- 小規模校の特徴を生かして、学級や学年の垣根を越えて日常的に教師が子どもたちを見つめ、よいことを見つけたときなどに声をかけることによって、常に見られているという意識を持たせることができるようになってきた。それにより、落ち着いた生活を送ることができ、いじめが起こらない土壌作りに寄与していると考える。
- あいさつについては昨年度の例をとると、児童会の生活向上委員会や代表委員会が中心になってあいさつ運動を展開した結果、元気のよいあいさつが数多く聞かれた。これもいじめ根絶に寄与していると考える。
- 掃除の時子どもの様子を週番教師が見て回り、がんばっている子どもたちの名前を放送で紹介することも行っている。これにより達成感や充実感をもつことができ、いじめの発生抑制になっていると考える。
- 各教科では一人調べの時間を確保することによって、できるだけ自分の考えをもつ

ことができるようにし、その考えを学級の中で発表し互いに認め合うことができるようにしている。また、児童会の集会活動を行うときには個人や学級の希望をアンケートなどで聞くことによって、より主体的に活動に参加できるようにしている。これらのことの継続によって心の居場所である学級の雰囲気作りができてきた。

3 取組みの評価（対応についての評価）

- 3つのスローガンを掲げ、具体的な場面で指導・賞賛することによって、子どもたちは教師に温かく見守られているんだという意識を持っていると考えられる。このことがいじめの発生を抑止する要因になっているのではないかと考える。

4 実践に関する資料（学習カード等）

3つのスローガン 5・6年生

年 名 前 _____

あいさつをしっかりしよう
 そうじを本気でしよう
 言葉づかいをよくしよう

		5月	6月	7月	8,9月	10月	11月	12月	1月	2月
心をこめて自分から進んであいさつができる。 先生やお客様にえしゃくができる。										
下級生の面倒をみながら本気でそうじができる										
相手の気持ちを考えた話し方ができる。										
反省 1学期	2学期	3学期								

※ 月ごとに反省をしよう。〔◎よくできた ○だいたいよくできた △あまりよくできなかった〕

※ 最後に1年間の反省をしよう